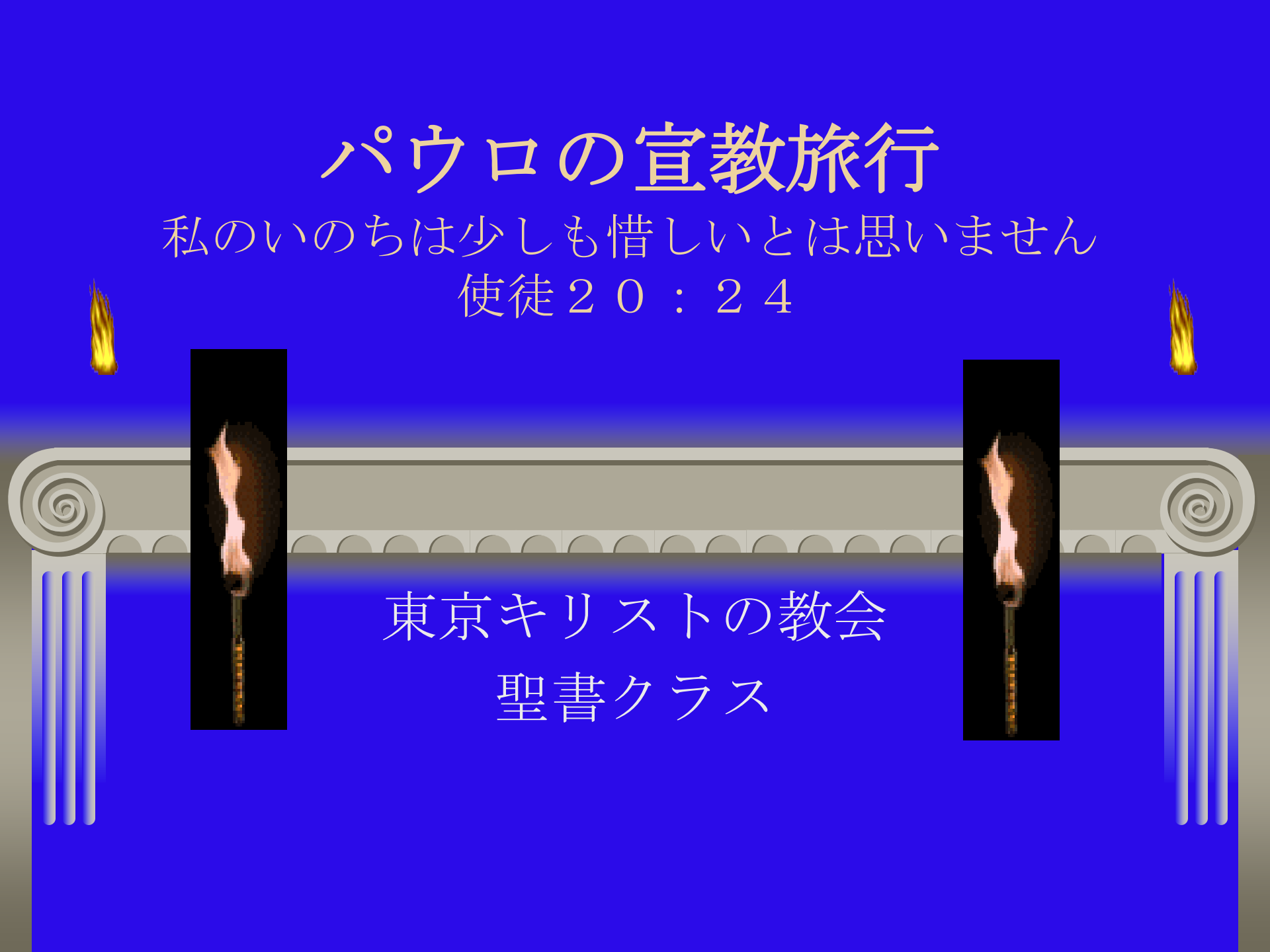


パウロの宣教旅行

私のいのちは少しも惜しいとは思いません
使徒20：24



東京キリストの教会
聖書クラス

クラス4「第二宣教旅行」

- *当時の哲学と宗教
- *パウロのパートナー
- *使徒16－18 第二宣教旅行

当時の哲学と宗教

ギリシャ・ローマ神話はキリストの時代には薄れていた。ギリシャの大都市の力が衰え人々の神々への信頼がなくなり人が不安になり、哲学に走った

皇帝の偉大な権力により、人ではなく神だと思わせた

皇帝アウグストスは自分は神だと宣言
皇帝を神として崇めることが義務となる
これを断ったクリスチャンは迫害された

当時の哲学と宗教

哲学

哲学は我々の存在を意味づける
ところからきた。人間は自分で
自分の運命を決められ、この世
についてのすべての答えを見つ
けられることが前提となっている



当時の哲学と宗教

プラトンは二つの世界があると教えた

1) 物質世界

2) 知識の世界（本物の世界）

当時の哲学と宗教

グノーシス主義(Gnosticism)

ギリシャ語では“知る”

救いは知識からくると教えた

プラトンの二つの世界が基本

人間の目標は知識の世界、つまり
本物の世界に到達すること

当時の哲学と宗教

グノーシス主義

物質の世界は悪に満ちている
神が肉体となったなど絶対にグ
ノーシス主義は認めない

グノーシス主義は二つの派に分
かれていた

エピクロス派とストア派

当時の哲学と宗教

使徒17:18 また、エピクロス派やストア派の幾人かの哲学者もパウロと討論したが、その中には、「このおしゃべりは、何を言いたいのだろうか」と言う者もいれば、「彼は外国の神々の宣伝をする者らしい」と言う者もいた。パウロが、イエスと復活について福音を告げ知らせていたからである。

当時の哲学と宗教

1) エピクロス派

エピクロスの教えとして快楽が人間の生きる一番の目的である

快楽主義を正当化する哲学

エピクロスの魅力的な性格により多くの信者が増えた。彼が教えた哲学は分かりやすく一般人も理解した。理想を失い自分のために生きていたギリシャ人にとっては魅力的であった。そして暗い魔術の教えから開放されるきっかけとなる

当時の哲学と宗教

2) ストア派

一般の宗教を認めなかったが、
神を信じ神に対して謙ることを
重んじた

理論が大切であった

人生の目的は自制、節制

当時の哲学と宗教

哲学は人間がつくったものであり、十分に人間の生きる目的を示すことができない。

グノーシス主義はキリスト教にとって大きなつまずきとなる

コロサイ書や第一ヨハネの手紙などがグノーシス主義に対して書かれた

パウロのパートナー

- 1)バルナバ
- 2)ヨハネ・マルコ
- 3)テトス
- 4)テモテ
- 5)シラス

パウロのパートナー

1)バルナバ (使徒14:14使徒パウロとバルナバ)

使徒4:36 たとえば、レビ族の人で、使徒たちからバルナバ——「慰めの子」という意味——と呼ばれていた、キプロス島生まれのヨセフも。。。

本名ヨセフ、キプロス島出身のレビ族

与えられた名前はバルナバ“慰めの子”と言う意味

裕福な家庭に育つ

御国の成長のために犠牲を払った

パウロのパートナー

1)バルナバ

9:27 しかしバルナバは、サウロを連れて使徒たちのところへ案内し、サウロが旅の途中で主に出会い、主に語りかけられ、ダマスコでイエスの名によって大胆に宣教した次第を説明した。

パウロと使徒との仲介者になった

パウロのパートナー

1)バルナバ

使徒11:22、24 このうわさがエルサレムにある教会にも聞こえてきたので、教会はバルナバをアンティオキアへ行くように派遣した。バルナバは立派な人物で、聖霊と信仰とに満ちていたからである。こうして、多くの人が主へと導かれた。

エルサレムの教会からアンティオケに派遣される。よい人だと言われた

聖霊と信仰に満ちていた

パウロのパートナー

1)バルナバ

使徒11:25－26 それから、バルナバはサウロを捜しにタルソスへ行き、見つけ出してアンティオキアに連れ帰った。二人は、丸一年の間その教会と一緒にいて多くの人を教えた。

タルソに行ってパウロをアンティオケに連れて来た。自分自身が教会のリーダーとして選ばれながら、パウロの方が適任だと判断し、自ら連れてくる。バルナバがパウロのこと信じてあげた。

パウロのパートナー

1)バルナバ

使徒13:2 彼らが主を礼拝し、断食していると、聖霊が告げた。「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出しなさい。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるために。」

パウロと一緒に第一宣教旅行に行った

パウロのパートナー

1)バルナバ 使徒15:36-40 数日の後、パウロはバルナバに言った。「さあ、前に主の言葉を宣べ伝えたすべての町へもう一度行って兄弟たちを訪問し、どのようにしているかを見て来ようではないか。」バルナバは、マルコと呼ばれるヨハネも連れて行きたいと思った。しかしパウロは、前にパンフィリア州で自分たちから離れ、宣教と一緒に行かなかったような者は、連れて行くべきでないと考えた。そこで、意見が激しく衝突し、彼らはついに別行動をとるようになって、バルナバはマルコを連れてキプロス島へ向かって船出したが、一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。

パウロのパートナー

1)バルナバ

ヨハネ・マルコのこととパウロと口論し、別れたこれ以降パウロの相棒ではなくなった

聖書はどっちが正しくてどっちが間違っているとは書いていない。難しい状況の中で兄弟にも相談し、丁寧に分かれたので御国分裂にならなかった。パウロは後に新しい相棒を見つけ、バルナバは時間をかけてマルコを元気づけた。

パウロのパートナー

1)バルナバ

心が純粋な素晴らしいクリスチャンだった
パウロやヨハネ・マルコのことを信じて育てた

聖書の中で立派な人物と言われた人はほとんどいなかった

パウロのパートナー

2) ヨハネ・マルコ

使徒12:25 バルナバとサウロはエルサレムのための任務を果たし、マルコと呼ばれるヨハネを連れて帰って行った。

バルナバとサウロがエルサレムに行って奉仕したついでに一緒にアンティオケに連れてきた

パウロのパートナー

2) ヨハネ・マルコ

使徒13:5 サラミスに着くと、ユダヤ人の諸会堂で神の言葉を告げ知らせた。二人は、ヨハネを助手として連れていた。

助手として第一宣教旅行に行った

13:13 パウロとその一行は、パフォスから船出してパンフィリア州のペルゲに来たが、ヨハネは一行と別れてエルサレムに帰ってしまった。

第一宣教旅行の途中でエルサレムへ帰ってしまった。15章ではヨハネ・マルコを第二宣教旅行に連れて行くかどうかパウロとバルナバをわけさせることになる

パウロのパートナー

2) ヨハネ・マルコ

何故ヨハネ・マルコはエルサレムへ帰ってしまったか？いくつかの可能性：

- 1) パウロとの宣教旅行が過酷で彼は耐えられなかった
- 2) ホームシックになった
- 3) 彼もきっすいのヘブライ人として異邦人の宣教を受け入れられなかった

(使徒 13 : 5, 13 ヘブライの名前ヨハネと呼ばれる)

パウロのパートナー

2) ヨハネ・マルコ

コロサイ4:10 わたしと一緒に捕らわれの身となっているアリストアルコが、そしてバルナバのいとこマルコが、あなたがたによろしくと言っています。このマルコについては。。

バルナバのいとこであった

第一ペテロ5:13 共に選ばれてバビロンにいる人々と、わたしの子マルコが、よろしくと言っています。

ペテロと親しい関係があった。マルコはペテロの通訳だとも言われた。マルコの福音書は主にペテロの説教、又は言葉によって書かれた。

パウロのパートナー

2) ヨハネ・マルコ

使徒12:12 こう分かるとペトロは、マルコと呼ばれていたヨハネの母マリアの家に行った。そこには、大勢の人が集まって祈っていた。

ペテロがエルサレムで集会所としてつかっていた所はヨハネ・マルコの母の家であった。

ヨハネ・マルコの母の名前はマリア

パウロのパートナー

2) ヨハネ・マルコ

フィレモン1:24 わたしの協力者たち、マルコ、アリストタルコ、デマス、ルカからもよろしくとのこと
です。

第二テモテ4:11 ルカだけがわたしのところにいます。
マルコを連れて来てください。彼はわたしの務めを
よく助けてくれるからです。

後にパウロと和解し、ローマでパウロと一緒に
になる

最終的にパウロにとっては重要な仲間となる

パウロのパートナー

3) テトス

テトス1:4 信仰を共にするまことの子テトスへ。
父である神とわたしたちの救い主キリスト・イエス
からの恵みと平和とがあるように。

ガラテア2:3 しかし、わたしと同行したテトスでさ
え、ギリシア人であったのに、割礼を受けることを
強制されませんでした。

ギリシャ人であり、割礼問題に巻き込まれた
パウロに育てられた伝道者

パウロのパートナー

3) テトス

第二コリント2:13 兄弟テトスに会えなかったので、不安の心を抱いたまま人々に別れを告げて、マケドニア州に出発しました。

コリントに送られパウロの手紙を手渡しし、
コリントの教会の報告をした

パウロのパートナー

3) テトス

テトス1:5 あなたをクレタに残してきたのは、わたしが指示しておいたように、残っている仕事を整理し、町ごとに長老たちを立ててもらうためです。

一緒にクレタに行き、パウロは先にそこを去り、テトスが働きを続けるように任命された

第二テモテ4:10 デマスはこの世を愛し、わたしを見捨ててテサロニケに行ってしまった、クレスケンスはガラテヤに、テトスはダルマティアに行っているからです。

ダルマティアの宣教まかされた

パウロのパートナー

3) テトス

World of the New Testament, Around A.D. 50



パウロのパートナー

4) テモテ

使徒16：1－3パウロは、デルベにもリストラにも行った。そこに、信者のユダヤ婦人の子で、ギリシア人を父親に持つ、テモテという弟子がいた。彼は、リストラとイコニオンの兄弟の間で評判の良い人であった。パウロは、このテモテと一緒に連れて行きたかったので、その地方に住むユダヤ人の手前、彼に割礼を授けた。父親がギリシア人であることを、皆が知っていたからである。

リストラで救われた。パウロに選ばれ第二宣教旅行に参加した。ユダヤ人をも救うために割礼を受けた。伝道者。

パウロのパートナー

4) テモテ

第二テモテ 1 : :5 そして、あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。

母ユーニケと祖母ロイスもクリスチャンだった。彼が先に回心した。

パウロのパートナー

4) テモテ

フィリピ²:19－22さて、わたしはあなたがたの様子を知って力づけられたいので、間もなくテモテをそちらに遣わすことを、主イエスによって希望しています。テモテのようにわたしと同じ思いを抱いて、親身になってあなたがたのことを心にかけている者はほかにいないのです。他の人は皆、イエス・キリストのことではなく、自分のことを追いかけています。テモテが確かな人物であることはあなたがたが認めるところであり、息子が父に仕えるように、彼はわたしと共に福音に仕えました。

パウロはテモテのことを誇りに思っていた
彼の心の純粋さ、愛の深さが評価された
パウロにとって信仰において真の息子

パウロのパートナー

4) テモテ

ヘブライ書13:23 わたしたちの兄弟テモテが釈放されたことを、お知らせします。もし彼が早く来れば、一緒にわたしはあなたがたに会えるでしょう。

パウロと同じように監禁された

臆病だとたくさん戒められたけど、成長し迫害の中でも述べ伝え続けた

困難なコリントやエフェソの教会に送られ、パウロに最も信頼されていた弟子だった

体調が悪い中で忠実に仕えつづけた

パウロのパートナー

5) シラス

使徒15:22 そこで、使徒たちと長老たちは、教会全体と共に、自分たちの中から人を選んで、パウロやバルナバと一緒にアンティオキアに派遣することを決定した。選ばれたのは、バルサバと呼ばれるユダおよびシラスで、兄弟たちの中で指導的な立場にいた人たちである。

エルサレムの教会のリーダー

バルサバと一緒にエルサレムの教会を代表し、エルサレム会議の結論について話すためにアンティオケに送られた

パウロのパートナー

5) シラス

第一テサロニケ 1:1 パウロ、シルワノ、テモテから、父である神と主イエス・キリストとに結ばれているテサロニケの教会へ。恵みと平和が、あなたがたにあるように。

シルバヌスと呼ばれている

第一ペテロ 5:12 わたしは、忠実な兄弟と認めているシルワノによって、あなたがたにこのように短く手紙を書き、勧告をし。。。。

第一ペテロの手紙を届けた。ペテロとも関係が深かった

パウロのパートナー

5) シラス

使徒15:34 しかし、シラスはそこにとどまることにした。

アンティオケに留まった

使徒15:40 一方、パウロはシラスを選び、兄弟たちから主の恵みにゆだねられて、出発した。

ヨハネ・マルコについての摩擦の結果、パウロとバルナバは別行動となる。シラスはパウロと同行する。一緒にフィリピで鞭打ちされ、牢屋に入れられながら一緒に賛美歌を歌っていた。傷ついたパウロにとっては頼もしい同行者だった

使徒16-18第二宣教旅行

Paul's First and Second Journeys



使徒16－18第二宣教旅行

- *使徒15：41 シリア（アンティオケ）と
キリキア（タルソ）訪問
- *デルベ、リストラ、イコニオム、ピシディア
州アンティオケ訪問（リストラでテモテを同
行人として選ぶ）
- *アジア州とビティニア州には入れず、
トラアスに行った
- *そこからマケドニア：ネアポリス、
フィリピ、アポロニア、テサロニケ、ベレア
- *アカイア州アテネ、コリント

使徒16-18第二宣教旅行

Paul's First and Second Journeys

